

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 2 月 28 日

所 属：獣医学部 動物応用学科

氏 名：宗綱 栄二 職位：准教授

役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

科目名	学科・専攻	必，選， 自	配当年次	受講者数
動物病態学	A	必	2	134
専門ゼミ	A	必	3	2
基礎ゼミ	A	必	1	178
毒性学—危機分析実習	A	選	2	57

動物病態学：免疫疾患、循環障害、腫瘍、妊娠期栄養不良といった多角的な観点から病態を深く理解することに努めた。この講義により学生は各疾患の背後にある基本的な生物学的プロセスや相互作用を把握し、その結果として現れる病態の全体像を捉えることができたと考える。講義では細かな知識の羅列にとどまらず、病態を形成する根本的なメカニズムの大枠に焦点を当て、学生が包括的な理解を深めることを重視した。また最新の研究成果も講義に取り入れた。アンケートの質問を答えることで双方向の授業の実践に努めた。

専門ゼミ：研究の基礎を固めるために、関連文献の収集とレビュー、および研究計画の策定等を行った。学生が研究テーマについて深く理解し、問題意識を持って今後の研究に取り組めるように解説・講義を行った。

基礎ゼミ：学生にキーワードを提示させ、それを基に各自でテーマを設定した。またプレゼンテーション資料の作成方法、構成、話す速度を含む口頭発表の基本技術について指導した。

毒性学—危機分析実習：特定の化合物や物質が動物個体へ及ぼす悪影響を理解することを目指した。毒性学実験では、標本の観察や麻酔の作用時間を評価するための動物実験を行った。学生が本実習を通じて化学物質のリスク評価への理解を深めるように努めた。

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

単に知識を蓄積するのではなく、その知識を実社会のニーズに応える知恵へと昇華させる能力を身につけることに重点を置いている。そのために、基礎力を徹底し、理論だけでなく実践的なスキルも同時に養う教育を提供する。学生一人ひとりが持つ潜在能力を最大限に引き出し、それを社会が直面する課題の解決に役立てられるよう導くことを目標としている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

アクティブラーニングについての取組

アクティブラーニングへの取り組みとして、授業内で学生に問題を作成させる試みを行う予定である。このアプローチは、学生自身が能動的に学習過程に参加し、自ら考える力を養うことを目的としている。授業では、単に知識を伝えるのではなく、学生に自分で問題を考えさせ、その解決策を模索させることで、批判的思考能力と問題解決能力を高めるよう努めている。

ICTの教育への活用

講義スライドにQRコードを組み込み、学生がそのコードをスキャンしてアクセスするオンライン設問に答えることで、リアルタイムで学生の理解度を把握することを予定している。この方法を用いることで、教員は授業の進行中に学生の理解が不十分な部分を即座に特定し必要に応じて説明を追加することが可能になる。学生は自身の理解度を即座に確認できるため、自己学習を促進し、積極的に授業に参加する動機付けにもつながる。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

①教育（授業，実習）の創意工夫（B）

スライドの内容を視覚的に理解しやすく改善し、学生のフィードバックを講義内容に反映させた。この方法により、学生がより積極的に学習に参加し、理解を深めることができる環境を提供している。

②学生の理解度の把握（B）

アンケートやレポートを通じて学生の理解度を定期的に評価した。定期試験の結果から把握した理解不足の部分を次年度の授業改善に活用する予定である。

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

学生の自発的な学習を促すため、関心を引く話題を提供したり、レポート課題を出している。学生が自学自習により深い理解を得ることを奨励している。

④学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（B）

授業後のアンケートを定期的実施し、学生からの質問に対応している。教員と学生間のコミュニケーションを促進することで学習支援を強化するよう努めている。

⑤双方向授業への工夫（C）

学生が主体的に参加する討論を授業内で行うことで、双方向の学習環境を実現する予定である。この方法により、学生の批判的思考能力とコミュニケーションスキルの向上を目指したい。

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

該当なし。

② ①の結果はどうでしたか。

該当なし。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

該当なし。

6. 学生の学修成果

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

適宜休憩を取り学生の集中力をリフレッシュする。

グループワークを取り入れ授業への参加意欲を高める。

個別に対応することで学習のつまずきを早期に解決する。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

教育活動によって得られる学生の成果及び学生・第三者からの評価は、現在まだ得られていない。今後、これらの評価が得られ次第、授業改善に活かす予定である。

7. 指導力向上のための取組 (FD研究会参加状況) (分量の目安: 1~2行 (40字~80字))

FD研修会に参加した。

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。

教育活動に関する今後の目標は、生徒が興味を持ち、参加意欲を高めるような授業を行うことである。また、基礎事項の理解を徹底させ、学生が知識を深くかつ確実に身につけられるようにすることも目指す。

9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ

該当なし。